

特集

うきは市でラグビー界前代未聞の挑戦!

ルリー口福岡誕生の経緯とそこに込められた想い

究真館高校ラグビー日本一と地域の社会課題解決を目指して

対談者
浮羽究真館高校 吉瀬晋太郎 (以下、吉瀬)
LeRIO福岡 代表 島川大輝 (以下、島川)
(聞き手 後藤悠太)



吉瀬晋太郎

「まずはじめに、いつごろなゼルルリー口福岡を立ち上げようと思われたんでしょうか？」

吉瀬 理由としては、浮羽究真館高校ラグビー部の日本一のためというのがあり、同高校の魅力化を図りたいという理由もありました。さらに、地域の社会課題もなんとかしたいと考えていました。これら全ての課題をラグビーを通じて解決できるんじゃないか、新しい価値が創造できるんじゃないか、と考えてチームを立ち上げることを決めました。ただチーム設立の1年前くらいだったと思います。

「その後、何から取り組まれたのでしょうか？」

島川 最初は、地元企業へ選手雇用のヒアリングをしました。そこでニーズがあると分かりました。それ以前から、頭の中ではある程度いけるという感覚があり、その感覚の答え合わせができた感じでしたね。

「選手はどうやって集められたんでしょうか？」

島川 選手のリクルート開始は2021年12月3日。準備が整って、声かけしても失礼ではないと自分も思ったタイミングでした。コカ・コーラレッドスパークスさんの選手たちと面談をしましたね。その後、選手からご紹介いただいたり、問い合わせが入ったりという流れでした。4月のチームスタート時点で約120人の問い合わせがありました。

「そんな過程で選手も集まってきたということですね。いざ、チームスタートとなった4月1日を迎えたときはどんな気持ちでしたか？」

島川 その日は市長、副市長と公室長に来ていただきました。その日に限らず、ずっと感慨深いというのが正直な感想です。4月12日の初練習も7月3日の初試合もそうでした。

吉瀬 実は、4月1日より前から西村光太選手(共同キャプテン)はひとりですと走っていました。その方が印象に残っています。「西村光太、1人でルリー口やっている」と。そこから1人また1人と増えたというイメージですね。



▲地域のイベントにも参加



▲練習場所は終業後の究真館高校グラウンド



▲チームはこの3人から始まった

島川大輝

兵庫県出身

埼玉県立浦和高校卒業後、早稲田大学へ進学

就職を機に福岡へ移住

浮羽究真館高校ラグビー部でコーチとして活動

LeRIRO 福岡 代表



吉瀬晋太郎

うきは市出身

浮羽高校卒業後、京都産業大学へ進学

住友林業株式会社→京都教育大学・滋賀大学・

佛教大学・京都産業大学（科目等履修生）→春日高校

浮羽究真館高校ラグビー部顧問



島川大輝

吉瀬 西村光太選手が子どもたちの心をつかんでくれたのが大きかったですね。そこから、徐々に選手が来てくれるようになりました。トップアスリートがロールモデルとして近くにいることはやっぱりいい。特にラグビーの向き合い方をアスリート視点の高いレベルで話してくれています。これは教育視点で話す教師にはできないことで、高校生にとってもいい刺激になっているんじゃないでしょうか。

We have Wings
誰もが、いつでも、どこでも、何度でも
チャレンジできる社会の実現を目指して

「運営の側面では当初はどんなことを意識していましたか？」

島川 最初に考えたのはチームを知ってもらうこと。少しでも応援してもらおうことです。「いつかルリーロが試合をするときに少しでも応援をしてもらえるように、チームを知ってもらう活動しよう」と選手たちと話しました。4月はスポンサーメニュー作り。5月から営業をスタートしました。その中で、それができたと思います。

「ルリーロ福岡としての試合や練習がある中、浮羽究真館高校ラグビー部の選手への指導も並行して進められていたんでしょうか？」

「お話を聞いていて、立ち上げ時にチームの土台がしっかり作られていたことが、トップキュウシュウAリーグで優勝という成績を残せた要因だと感じました。最後に、この1年間チームを振り返った感想と、今後についての考えを教えてください。」

吉瀬 これからの時代は、考え方や価値観がより重要になっていくでしょう。今後、ルリーロ福岡の「いつでもだれでも何度でもチャレンジしていいんだぜ」という考え方が、たくさんの方の新しい拠り所になればいいなと考えています。

島川 今シーズンは100点、いや、200点だと思っています。次へ次へと進んでいるので不安はありませんが、できる、やれると信じて取り組んでいます。これからも謙虚に攻め続けたいですね。ぼくにあって、ルリーロ福岡は可能性だと思っています。地域の社会課題に対して、スポーツが、ラグビーが、ルリーロがひとつの光だと思えますし、そうならないといけないと思っています。今後もそんな可能性のあるチーム作りをしていきたいです。



▲トップキュウシュウリーグ 2022 A リーグ初優勝時多くのファンが現地に駆けつけた



▲メンバーも次第に増えてきた